ここで紹介しているのは、諸岡が個人的に活字起こしたテキストです。顕写なども含まれるとおもいますが、その点をご了承していただき、あくまで参考資料としてご覧いただければ幸いです。研究などに用いる場合は、東北大学史料館蔵の原本に直接あたってください。転載をする場合は、史料館の許可が必要です。

(<http://mmmmr.web.fc2.com/kenzo/kenzo-index.html>)

阿波範土言行録稿本

分類二五 「二五一〜二六四」

「阿波道場口演」

（昭和十一年八月二十七日ヨリ同三十一日二至ル間ニ阿波道場ニテ行ハレタル講演会ニオケルモノナリ。阿波家蔵手帳ヨリ）

正しい魂が正しい体形と合融合して一枚不二となり心籍を三昧に置きはつきりと自己を明鏡止水に躍如たらしむる姿を見詰め明るき人格を射の上之を見るとき敬虔恭敬の感が生ずる。之を見る眼を持ちて居る者に取っては最も美しい情景であつて実に荘嚴なものである。此の情景をはつきりと見詰める者は道を持ちて居る者丈なのである。世に汚隆なしとせず正氣時に光を放つと藤田東湖先生は言はれた。吾々人生は正しきを奉じて正しきに生きべきであつて是れ即

ち弓道生活の原則であります。

然るに此の正しきを愛せず正法に即せずして而も世を濁す人達も亦決して絶無とは申されない。故に世に汚流なしとせざる所以であります。然しながらこの場合夫れを同時に天地正大の正法即ち道に即する人は乾坤照破の大道を顕現すべきであつて昔より正道に即する人は心を王道の政治に致して王政復古の忠誠を発露されたのであつてその人々は忠孝一本の丈夫であります。何事にも至誠を以て事に当る人々なのであります。教育者の心即ち夫れなのであります。

世界無二なる我が神国の高揚も又先孝の人々の誠意の存続と合せ深き教育学の力であつて学ぶ事は皆教学であるので、つまり藝術も科学も哲学も即ち宗教も悉く忠孝一本が原則となり其の盤桓「*恒？」の深きを知るからであります。

人には上智と下智の差があつて即ち境地の差があつて客観と主観の別がある。つまり小乗的に法術を学ばんとする理「*「理」を「望」とする修正あり」の人と大乘的に悟道を深めんとする欲求の秀れた人の望の間には同じ道の言葉でもその琴線に触れる響き方に相違のあるは已を深く得ざることである。

併し誰しも心境の向上を望まぬ者は無い筈であつて、つまりその光明の輝きの大ならずとも一度正法に点ぜられた心の光は日一日とその輝きを増して自己の生涯を照らしつゝ、■世「*「弓道濟世」と注

積者による加筆あり」の大理想に邁進せんとする大勇猛心に燃るものでありますから正しい道に照す事は尤も自己反省と共に尤も大切な事である。今回講習の諸君は此の崇高なる射道を学び一射毎に反省に反省を重ねつゝ人格を練り真の我を悟る所以であります。一射断悪の反省に打勝ちつゝ開拓する練丹精神を自己の精神とし主義とし理想とし其の大なる抱負として自己永遠の生命を培ふことゝなるのであります。

藤田東湖先生の世に汚隆あり時に生氣「マエ」の光を放つと是れ人心に緊張を欠き外来思想に慢蝕「*「浸蝕」の誤り？」せられ動もすれば我が国体思想に反するの徒を出す思想の統一を欠くなきにあらざるも常に至剛の精神を以て正しい君子の道を養ふこと一瞬時たりとも忽かにすること能はざるべしとする者であります。此の弓道は天照大神即ち惟神道より淵源する故に神武一体にして弓は天祖の御心なりと。さらば之を奨励し之を盛んならしむる事は国家興隆の本をなし且つ天業の恢弘と皇道精神の発揚とを期する所以であります。惟心に惟心とは至極の意にして惟心道即ち武道を練ると言ふ事は皇祖皇宗の遺訓であるから、この尊厳極りなき道を修せよとお奨励遊された次第と恐察し奉る次第であります。我等この一箭に全生命を傾倒し粉骨碎身の努力するは人間最高を務であつて即ち忠であるのであります。忠なれば即ち孝であるからであります。忠孝働きの射行に

依つて最高道徳を完成せんとする者であります。それで我が弓道指導者の覚悟は総ては子弟に向かつて投げ与へるものは指導者の反影だけである事を知つて居るから正しきに住して熱涙を流しつゝ不惜身命を以て教導するのであつて将来弓道精神が礎柱となるべき魂を注入して置くのである。夫れで弓は自己の正しき茲とを引くのであつて正しい器で自己を正しく至誠を中心として心力を養ひ気海丹田に心力を統一し合一の神を養ひ念力を丹田に入れ込み心氣に信念を来して射に向つて全生命を傾倒、一矢に国体明徴の大義を実行に移すべく、畢生の心力を注ぎ誠忠の誠に注ぎ奉るのである。

己を射つゝ己を高めて行くも道心の働である故に道に住する人は如何に峻厳な教に処しても如何なる苦痛にも耐へ得る忍耐が益々克己の心を明確に發揮するのである。それで弓取りの人は如何に自分を処すべきかを哲学的に見つゝ自分を高めて総てを忘れつゝ自己を捧げて行く神堅「*「聖」か」な大義道が即ち弓道魂日本精神なのである。

その高めてくれる弓矢の道に精進するのである。人間は修養して大きな人格者に、大きな人格者とは肚の出来た人を言ふのである。肚の出来た人は何事にもよらず国家の宝である。

自己を忘れて献身一如、国家を思ふて教育に従事するのである。己を厳格に住して範を子弟に示し偉い子弟を造るなら峻厳忍耐に打

ち勝たせよ 屹度自己の性格に似て来る即ち感化なり。大自然の啓示たる射教は森羅万象の大徳を民衆に体養せしむ。

人倫の体経たる射教は至仁純愛の発露を社界に実現せしむ。

射教は人の志気を鍛錬し剛毅廉直ならしむ。

射教は人の靈識を純化し權威を莊嚴ならしむ。

射教は輕佻浮華なる思想を健全に化す。

射教は伝統的精神の流を浄化して新生命を与ふ。

射教は同胞の幸福を進展せしめ人格建造の大業たり。

射教の一箭は心霊の^{「マム」}培養である。

射教は性情怠なる者忍耐力に乏しきもの、注意力散漫なるもの、持続性に乏しき者、白状で残忍性に富んで居る者、智的方面に欠けて居る者、品性に賤しき者、沈着を欠く者等の欠陥を補ひ指導善化せしむることに容易ならしむる者である。

習字「*「習学」の誤りか」

(一) 完全なる合理体を作る事

(二) 停滞なき射を行はしむること。

(三) 全射に亘る注意涵要「*「肝要」と修正あり。しかし「涵養」が正しい可能性もある」のこと

(四) 滅んとする自己を統断せしむる事。

(五) 不動の体を作る事。

(六) 下腹部に精神集中せしむる事。

(七) 丹田を練る方法を与ふる事。

(八) 深奥なる一気を練らしむる事。(丹田呼吸)

(九) 合理的呼吸の調節を知らしむる事。

射境としては人間と弓との合致点まで行つた時、射を行はんとする心も射にある心も結果を希ふ心も発せんとする心も苦痛も重荷を下ろさんとする心も一切脱離して無限の世界に合致せんとする大きさと軽かさ^と安らかさ^と明るい世界に初めて自己本然の大自然を識るのである、此の境地を射裡見性と言ふ。

一射絶命大死一番の精神勤勞は生きた宗教である。流汗淋漓の努力も道に住し道に遊べば即ち涼風万斛に満つるので是小浩然の氣と言ふのである。

此の精神が即ち現今の青少年の国家的指導精神の尖端を趨りて之を提唱する勇者であつて即ち之を實行する智者勇者なのであります。現今は太平の余沢因循姑息を赦しません。我が国武道(弓道)は一種の技巧的試練を能としたる遺傳的病症であることを廃せさせねばなりません、技巧の研究は完成すれば真に行詰りが生じ只繰返し斗りであるからである。

講習員各位が一致して弓箭報国の大義道心を振り起して天下に弓道

精神作興の大経綸を行はなくてはならぬ事であります。

私は此の実行に当りたる時代は既に二十五年前でありまして一時は殆んど波瀾曲折が免れなかつたのでありましたが其の正しき道を信じ其の正しきに精進したから正しきを好む人、正しきに精進する人は之に順応し相助けて今や指導的大勢力となり既に正法に順応する様になりて居るのであります。其の普及するに当りては身自ら手を渦中に投じて焼栗を拾ふ覚悟があつたからであります。

此の大道を築成して公共的精神を国家にご奉仕せんとする犠牲的精神なのであります。

昨日の諸君の一箭は実無実窮道に当つて死を厭はず一射絶命の射業を実行された事に感謝を捧ぐる者であります。諸君が正々堂々の気に溢れ大死一番の覚悟の射こそ小細工や齷齪たる消極的な御考が取り去られて邪曲する所なく射行動作中も発後の直後に於ても■身宇宙に遍満され大気を吸ひ込み即ち（丹田呼吸）其の総てが丹田に心霊を籠めて靈気をはき出し丹田を洗滌しつゝ心力を練り心気を充実にして天地正大の気を宇宙より吸ひ込み丹田に送りて靈身靈■を豊にならしめつゝ実証的修行を拜見して実に敬虔なる気分に打たれた次第であります。お互の注する所は仮澄的ではないので弓を通して眞澄を見詰め総てに莊重沈着而して静動の大妙に生き明白なる思想に及んで門生及び大衆に及ぼんとする修行修正なのであります。

我等は一射毎に皆さんに向つて自己の信念を通せ、あわてるな、驚くな、統一を射止めよと、呼んでゐる。

結果を超越して射を行せよ。一射絶命の精神で射行せよ。此の射道に於て引込んで会中に到りて丹田を強く正しく守れと丹田にて的を射貫け。之乾坤一擲である眞の自己を以て天地にたゞき附けると獅子吼するのである。

思想が無ければ無学の射であるから射上に自己人格の大思想と大義の精神を其の一箭にからみ附けて丹田を通して射込むのである。

故に射道思想は自己人格を完全に開導するのである。其の呼吸は丹田にて虚空より靈空より吸ひ込みて夫れを丹田にて靈化させて丹田にて発動させるので、つまり靈箭発動であるのであります。一射毎に自己が練れるのであります。乾坤一擲の精神とは天地を引き附けて天地一枚の働まで其の天地を自己の丹田に打附けよとその勇胆を養はしめて結果に捕はらてゐる姿を救いたないのであります。我等の射は的中本意の仮証的ではなく実証的であるから弓を手にして身体を練り弓を通して眞実性を見詰め進退の動作を莊嚴と沈着ならしめて静動の大妙に生き明白なる思想に及んで大衆に及ぼんとするのである。故に精神は心の実行者であらねばならぬ。決して精神の奴隷であつてはならぬ。